令和６年度　神奈川県介護生産性向上推進活動支援事業

ほほえみの丘における
生産性向上DX実践(第一報)

発表者　　所属　JA神奈川県厚生連

小俣　純一　　介護老人保健施設ほほえみの丘

共同発表者

髙橋 朋美(主任)、水越 淳一(次長)、甲斐 大介(次長)、坂本 光智子(課長)、蒔田 知美(施設長)

施設概要

「ほほえみと思いやり・責任と誇りを持って地域に貢献」　開設25周年

- 施設名

JA神奈川県厚生連
介護老人保健施設 ほほえみの丘

- 住所　神奈川県伊勢原市下平間500番地

入所・短期入所100床（うち認知症40床）
通所リハビリ　居宅介護支援事業所

「その人らしい」生活が実現できるよう
明るく家庭的な雰囲気の中でリハビリや
日常生活能力の維持・回復を支援します

プロジェクトの概要

- 応募した理由（エントリー当時）

令和5年度に日立システムズのフューチャー福祉の森を導入し介護業務の効率化を目的にアナログからデジタル化に着手したが、より一層の取り組みを進めるため、見守り機器の情報収集と介護現場での活用について検討している。

具体的な達成目標については、既存のリスクマネジメント委員会、感染対策委員会、排泄支援委員会、褥瘡予防委員会、高齢者虐待防止委員会、口腔摂食嚥下委員会等で定期的にBSC(バランスト・スコアカード)で管理している指標データを、より発展させて利用者安全、ケアの質向上、業務効率化、そして職員負担軽減などについて課題解決をはかりたい。

- プロジェクトメンバーの紹介

共同発表者

髙橋 朋美(介護主任)、水越 淳一(介護次長)、甲斐 大介(情報ｼｽﾃﾑ次長)、坂本 光智子(看護課長)、小俣 純一(事務・施設次長)、蒔田 知美(医師・施設長)

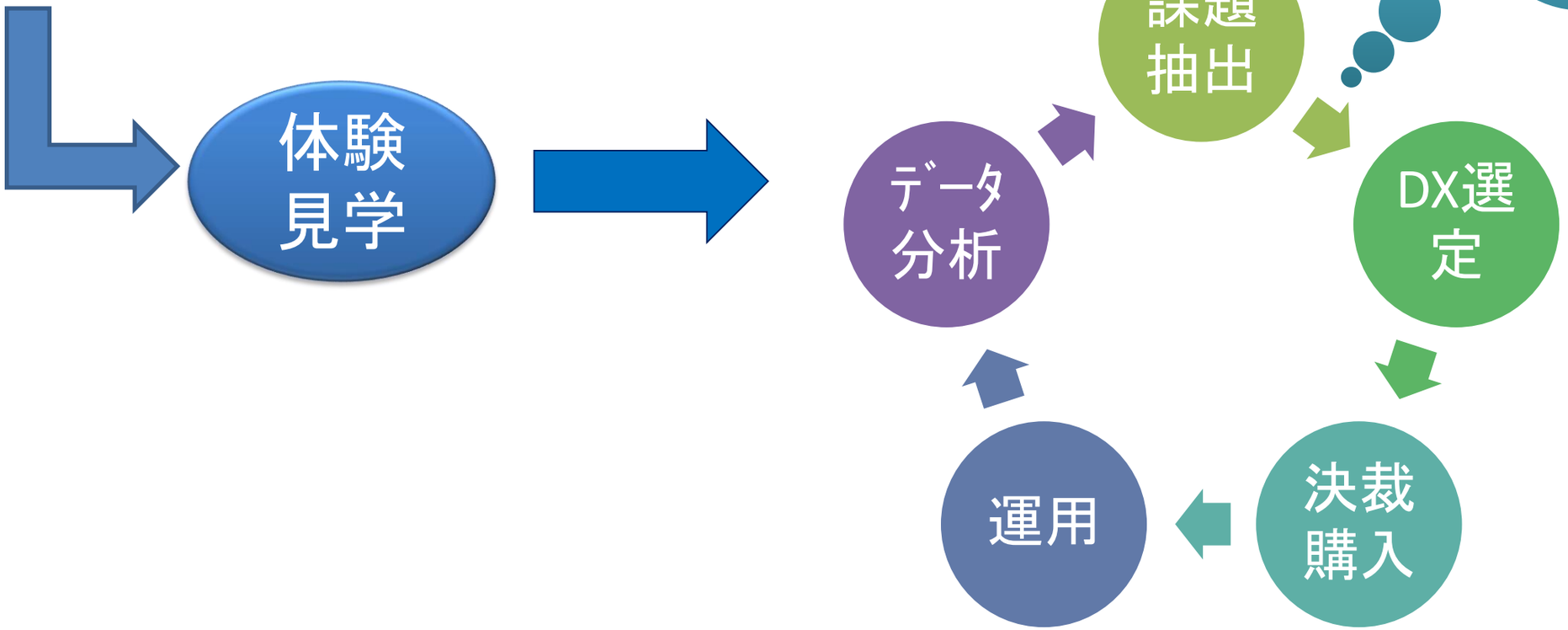
研修時に想定した施設の課題

- 研修時に考えた施設の課題、因果関係図

介護記録システム**福祉の森FUTURE**導入したばかりで、

DXを活用する余裕(資金･ノウハウ)不足

何から手を付ければよいか？



実際の施設の課題と対応策

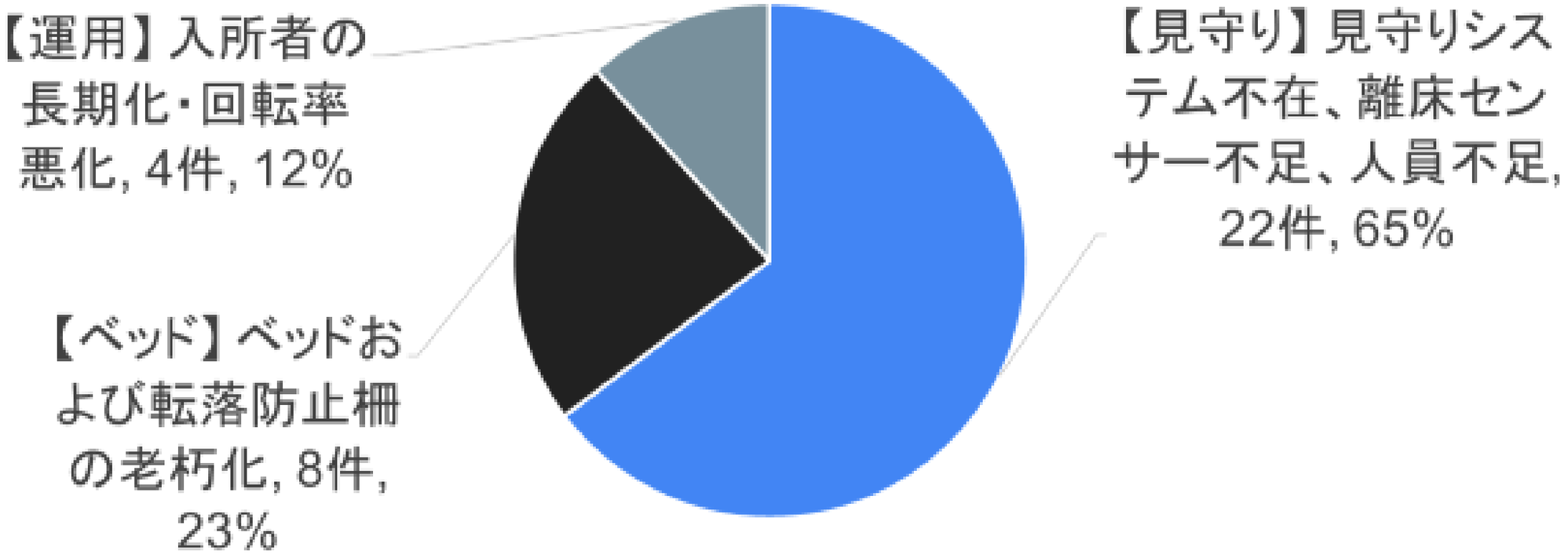
実践取組み　各種ロボットのデモ

R6年　夏頃

実際の施設の課題と対応策

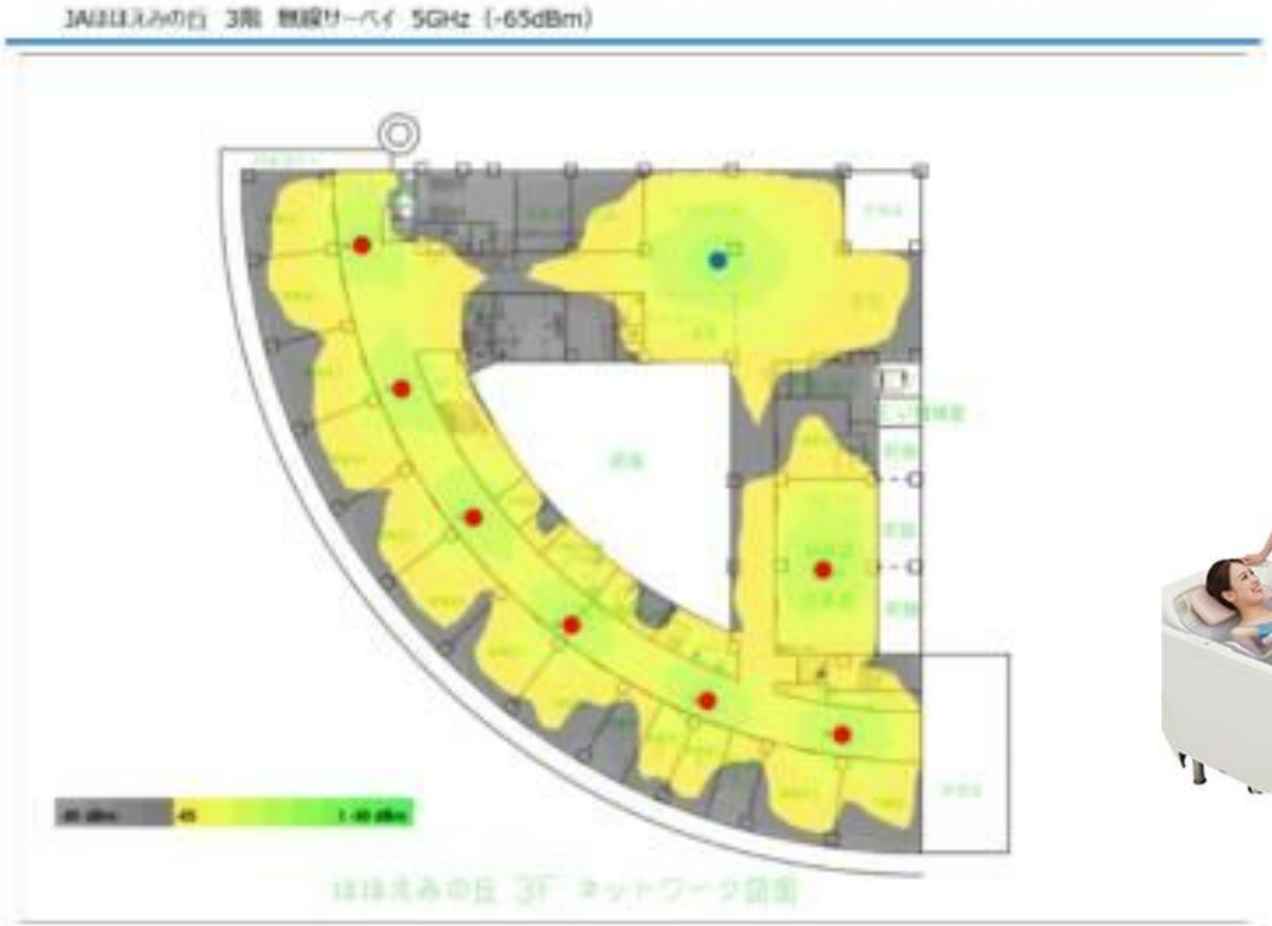
実践取組み　現場の課題抽出

「見守り」と「ベッド」を中心に絞り込む



実際の施設の課題と対応策

WiFiアクセスポイント増設　R7年1月 完了



入浴支援ロボット
今回　見送り

13

実際の施設の課題と対応策

見守り支援システム
眠りSCAN　100台

見守りロボット「眠りSCAN eye」
25台

見守り支援ベッドシステム
5台

通信環境整備　インカム
20台

今回　見送り

JA神奈川県厚生連
介護老人保健施設 ほほえみの丘

R7年3月　～　ついに運用

導入する機器と、機器を使用したときに想定される効果

解決すべき課題	課題を解決する機器	選定理由	導入時に必要な工夫

実践取組み　現場の課題抽出

大半が見守りとベッドの問題

見守りシステム不在 離床センサー不足 人員不足	22件	転倒させたくない 見守り必要な認知症が多い 離床センサー不足、古く作動不良多い 夜間、不眠の入所者が多く対応しきれない 認知症で起き上り時に転倒リスク高く夜勤（1人）時に対応しきれず
ベッドおよび転落防止柵の老朽化	8件	ベッドが古く高さ調節できず ベッド柵が古く破損が多い 24年前の手動ベッドが多数

8

若手スタッフの意見反映

↓

生産性向上委員会のさらなる活性化

まとめ （BSC:バランスト・スコアカード）

JA神奈川県厚生連
介護老人保健施設 ほほえみの丘

BSC 2024

	戦略目標	重要成功要因
財務の視点	経営の健全化を図る	経営基盤の強化、**介護報酬改定に伴う体制作り**
顧客の視点	利用者の満足度を高める	介護・看護サービスの質向上を図る
		地域に根ざした活動を行う
	サービスの質向上	**医療安全対策を強化する**
		介護ケアの質向上に努める
		感染対策を強化する
	働きやすい職場環境を助成する	ワークライフバランスを整える
		働きやすい職場環境の醸成
業務プロセスの視点	業務の効率化を図る	**業務改善を推進する**
		材料費を削減する
学習と成長の視点	高い臨床実践能力を備えた人材を育成する	学会参加を支援する
		スキルアップを図る
		緊急時対応の育成を図る

生産性向上
DX実践中

今後の課題

- 導入時の工夫をどのように実施するか、今後どうしていきたいかなど

深刻な人手不足
スタッフの高齢化
経営不安定

魅力ある介護現場づくり

地域への貢献